

グループ討議報告書

グループ 4

今回のグループ討議のテーマは「図書館の企画・広報・PR—利用者に図書館をもっとよく知ってもらうために—」であり、事前に、以下の 3 点について回答をまとめてくるよう課題が出ていた。

- (1) 自分の図書館で現在行っている企画・広報・PR 等について
- (2) あなたが今後やってみたいと思う広報活動のアイデアや、効果的な PR 方法とはどのようなものか
- (3) (1)について問題点や改善点はあるか、(2)を行う上での課題や問題点は何か

まず、(1)については、主に次の 7 つの回答が寄せられた。①新着雑誌の展示、②情報検索のセミナー、③利用案内の作成ならびに利用者へのオリエンテーション、④企画展示、⑤貸出ランキングの発表、⑥オリジナルグッズの作成、⑦アンケートの実施、⑧入学前の高校生への図書館の開放。

各大学図書館とも、利用者に大学図書館への関心を持ってもらおうと工夫をこらしている様子が伺われた。

次に、(2)については、主に次の 4 つの回答が寄せられた。①携帯電話等を利用した宣伝、②教員を交えての図書館の宣伝、③学生を通じた図書館の宣伝、④図書館利用に応じたのポイント制度（ポイントカード）。

①の具体例としては、メールやツイッターなどを利用して学生に情報提供をするという意見が寄せられた。

②の具体例としては、「講義を通じて、教員に図書館の重要性について学生に伝えてもらう（教員を図書館の味方につける）」、「図書館利用の教材を講義で配布してもらう」、「図書館員が情報検索等の講義をもつ」等の提案があった。

次に、③の具体例としては、「利用している学生に **News Letter** を書いてもらう」、「利用している学生からの口コミで図書館の重要性を他の学生に広めてもらう」等の意見が寄せられた。

最後に、④の具体例としては、「ポイント毎に景品のようなものを設定する」ということが挙げられた。

最終的には、教員や学生を巻き込んだ（言い換えれば、味方につける）図書館の宣伝が効果的なのではないかとということで意見がまとまった。

最後に、(3)については、以下のような意見が寄せられた。

(1)–③の「利用案内の作成ならびに利用者へのオリエンテーション」については、ある大学図書館では現状の利用案内や館内表示が利用者にとってわかりにくいいため改善する必要がある、(2)–②の「教員を交えての図書館の宣伝」については、なかなか教員と図書館員が交流する機会がない。

グループ 4 は、小松アドバイザーの図書館員として長年の経験をもとにした的確なご助言もあり、有意義な議論を行うことができた。